

第4回キールボート強化委員会議事録

2011年9月29日(木)

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室

◆委員長：中澤信夫 議長：久保田悟 事務：熊谷一樹 金子純代 村井梨恵 書記：中山遼平

◆出席者(順不同)：河野博文 児玉萬平 古川龍文 山田寛 上松慮生 原巨樹 稲葉高広
戸谷壽男 田代和史 金井亮浩 伊藝徳雄 稲葉健太 畠山知己

◆開会 19:00

◆委員長挨拶(中澤)

- ・ 久保田悟, 金子純代の2名を副委員長に指名。委員も募集する。

◆アメリカズカップ委員会からの報告(金井)

- ・ 次回アメリカズカップが2013年に開催。
- ・ AC45によるワールドシリーズが開催中。
- ・ 屈強で直感的セーリングのできる若手セーラーが主体。
- ・ 若手マッチレーサーの育成において, キールボート強化委員会と協力できないか。

◆日本マッチレース協会からの提案(戸谷, 田代)

- ・ 「JYMA 選抜大学対抗ヨットマッチレース大会」を開催予定。
- ・ 場所は日産マリーナ東海で, J24を使用する。
- ・ インカレ日程と重ならないよう, 2012年3月10~11日を仮日程としている。
- ・ 招待形式であり, インカレ成績に基づく大学の選考。
→ 初回であり, 予め打診をして参加有望な大学から優先的に招待してはどうか。(伊藝)
- ・ 現役(四年生)主体だが, OBも条件付きで乗艇を認める。
→ OB枠を広げることで, OB(会)からの支援, 盛り上がり期待できる。(久保田)
- ・ 冠スポンサーを募集中。
- ・ 大学生セーラーのキールボートへの参入を促すため, 学生マッチレースの開催についてキールボート強化委員会と協力していく。

◆ジャパンカップについて

- ・ 9月開催で結果的に台風と重なり, 逗子レガッタとも日程が重なってしまった。(古川, 稲葉)
- ・ 参加艇数, 参加人数が少なかった。(上松)

- ・ 運営はスムーズだったが、艇数が少ないとオーナーが楽しいレースもしにくい。(古川)
- ・ いいレースのマネージメントに加え、ヨットイベントとしてコーディネートする必要がある。(伊藝)
- ・ ジャパンカップの日程は、1年前に参加チームのオーナー会議で決めているが、開催加盟団体に資金依存しており、加盟団体の予算決定後までアナウンスできない。
 - 早々に開催団体を募り立候補がない場合、JSAF 外洋で主催し日程をアナウンスした上で、加盟団体と協議しながらセーラー目線で内容を決めてはどうか。(児玉)

◆小委員会方針

- ・ 小委員会の役割を整理する(①~④)。(中澤)
- ① ワンデザインキールボートパーク&キールボートスクールの開設。
- ② 学生セーラーへの御提案とディンギーセーラーへの普及。
 - ・ JYMA と協力して学生マッチレースを開催する。
- ③ ジャパンカップを頂点とするレースシリーズの再構築&環境準備。
 - ・ いくつかのレースを合体して、レースウィーク(選手権, クラス別)を開催し、実績を作る。(畠山)
 - ・ 台風のリスクはあるが、ビールの美味しい9月か10月の開催が望ましい。(畠山)
 - ・ 相模湾のレース日程の調整。葉山マリーナとリビエラに打診し、好感触。(稲葉)
- ④ 世界のメジャーレースの研究と参加準備。

◆今後のスケジュール

- ・ 11月を目処に、草稿でいいので、活動の方針・実績をまとめて欲しい。(児玉)
- ・ 年初にはJSAF 理事会への提言書を提出する。(中澤)

◆日中韓親善レース, NYIC インビテーションショナルカップの報告(中澤)

- ・ 親善レースで中国から日本に強豪チーム派遣の要望があった。
- ・ キールボート強化委員会の中で親善レース出場権の有効利用をできないか。
- ・ 次回、NYIC インビテーションショナルカップには優秀なアマチュアセイラーを選抜してJSAF チームのクルーとして出場させる案もある。
 - アマチュアセイラーの目標としたい。
- ・ JSAF の公益法人化により、レース等のスポンサー企業もJSAF を通すことで寄付金計上での免税のメリットがある。(児玉)

◆閉会 21:00

- ◆年内の委員会開催日程： 10月25日 11月25日(予定) 12月21日(予定)